メディアと戯れる―私とミニ FM―

経済学部 地域システム学科　教員 豊島 慎一郎

はじめに・・・自己紹介

経済学部教員の豊島慎一郎です．専門科目では「情報社会論」，教養教育科目では「ボランティア社会論」と「情報リテラシーⅢ」を担当しています（2000 年度）．私は経済学部に所属しているですが，学生時代は経済学ではなく，「社会学」という学問を学んできました．普段，私たちが生活している世界には様々な出来事（社会現象）が起こっており，そこにはさまざまな「問題（＝人びとが解決すべき事柄）」が潜んでいます．例えば，いじめや犯罪，差別，公害などを思い浮かべてみるとよいでしょう．こうした社会的な問題を解決することを目指して，関連する書物やデータ（資料）を深く読み込み，論理を組み立てて，「問題（社会現象）」が発生する要因やメカニズムを明らかにし，そして人びとにとって望ましい社会の仕組みやあり方を考える知的な営み，それが「社会学」です．その良い例としては相応しくないかもしれませんが，私の主な研究活動を簡単に紹介します．

まず，「西宮市からの転出者（震災被災者）調査」（1995 年）と「西宮市の震災被災者の生活に関する調査」（1996 年）に関わって，阪神・淡路大震災によって被害を受けた人びとの生活実態や意識を調べ，都市計画の設計や政策策定，システム構築の必要性を踏まえて，非常時における行政サービスのあり方について検討しました．

次に，これらの調査への参加がきっかけとなって，震災ボランティアに象徴されるような「社会的活動に参加する人びと」をこれからの市民社会に担う「新しい市民」として注目するようになりました．具体的には，各種統計データを用いて日本の社会的活動の現状を検討する作業を通して，「障害」者や要介助の高齢者，震災被災者といった「社会的活動を活用する人びと」が抱えている諸問題を解決していくには一人一人がいかなる論理と意識をもつことが望ましいのかについて考察しています．関心がおありの方は，拙稿が掲載されている，高坂健次編『日本の階層システム第 6 巻 階層社会から新しい市民社会へ』（東京大学出版会）をご参照ください．

そして最近は，電子ネットワークを媒介して他の人びとと協力しながら社会的な問題を解決しようと行動する人びと（デジタル・ネットワーク市民＝「ネティズン」）と地域情報化との関係について興味関心をもっています．現在，「豊の国ハイパーネットワーク（大分県の情報通信ネットワーク）」構想についてメーリングリストを用いた電子会議で意見を出し合い討論する<市民>の姿を通して，地域情報化政策をめぐる現状とその問題性について調べているところです．

ミニ FM，インターネット，そしてボランティア

私が地域情報化に関する研究に取り組みはじめたのはごく最近なのですが，興味関心をもっていたのは今から約１０年前・・・大学生時代までさかのぼります．実は，私は学生時代に故郷の兵庫県尼崎市でミニ FM 放送（以下，「ミニ FM」と表記します.）に関わっていまして，自宅や友人宅で「ラジオごっこ」に興じておりました．ミニ FM 局は，FM 電波の送信機やマイク，ミキサーなどの機材さえあれば，趣味や遊びの範囲で誰でも自由に開設することができます．微弱な電波を用いているので，無線局免許も要りません．ちょっと小難しく言えば，スポンサーを取らず，モノや金銭による利益を追求しない，

極めて私的な放送メディアが「ミニ FM」なのです．同じ FM 放送でも，新聞や TV ニュースなどでよく取り上げられる「コミュニティ FM」は，地域振興や活性化を目的とした住民参加型の公的な放送メディア（無線局免許が必要）です．ですから，ミニ FM とコミュニティ FM とは全く別物と捉えてください．詳しくは，総務省の電波利用 Web サイトをご覧ください．

ミニ FM は，一般のラジオとは異なり，微弱な電波を用いているので，放送エリアが非常に狭い範囲に限られています．ですから，リスナー（聴取者）は必然的に「ご近所さん」になってしまいます．しかしながら，幾つかのミニ FM 局が互いに電波を中継すること，すなわち「ネットする」ことによって広い範囲に電波を送信することが技術的に可能となります．実際に，私が関わっていたミニ FM ネットワークでは，放送エリアとして大阪市西部，兵庫県尼崎市内および西宮市内（一部）をカバーしており，多くの DJ（局長）やリスナーによって私たちの「ラジオごっこ」が支えられていました．なお，ミニ FM については，江下雅之『ネットワーク社会の深層構造』（中公新書）の 105～109 ページに簡潔に説明されています．

当時のミニ FM は DJ 自身が若い世代に属していることもあって，若者向けの番組がほとんどでした．DJ 達はリスナーからのお便りを紹介してリクエスト曲をかけたり，流行の音楽や話題の芸能ネタ，漫画・アニメ，地元ネタなどオタッキーな話をウダウダしゃべったりしていました．当然のことながら番組制作の面では素人ですが，つくり手と聴き手とが一緒になって番組を盛り立てていったという点では一般のラジオ番組には決してひけをとらなかったように思えます．また，番組の公開録音やライブ，カラオケ大会などを行なって，こじんまりしているけれども，若さが暴走した<熱い>番組イベント（内容的には今で言う「オフ会」のようなものです）を開いたりもしました．けれども，楽しいときはそう長くは続かず，1993 年，さまざまな事情で私のミニ FM 活動は幕を引くこととなりました．

私にとって，ミニ FM とは，コミュニティ FM のような地域振興や活性化につながるような公的な活動とは対極にある「プライベートかつマニアックな趣味」でした．しかし，自分が住んでいた尼崎という<地域>に根差しながらメディアのつくり手（ないしはサブ・カルチャーの担い手）となることによって，番組制作や情報提供の難しさ，ミニ FM を通じて知り合った地元の仲間（DJ・リスナー）の大切さ，放送に関わる人権・倫理の問題，電波法（国）による規制の問題など，大学や普段の生活からは得ることができない多くのことを学びました．その一方で，大学生時代にメディア論・コミュニケーション論を専攻していた経験が現実の場で活かすことができたことに「やりがい」（自己満足？）を感じていたりもしました．

以上，私とミニ FM との関わりについて述べてきましたが，今思えば，現在のネット社会が内在している「ある側面」が一昔前のミニ FM の世界において既に現れていたような気がします．ベストセラー『不平等社会日本』（中公新書）で知られる佐藤俊樹先生（社会学）は，『現代思想』（2000 年 1 月号）のインタビューで「WWW とインターネットを普及させたのは，自分もマス・メディアになれるという欲望」だと述べています．佐藤先生の言葉は，メディアの特性は異なりますが，ミニ FM の世界にもあてはまるのではないでしょうか．例えば，私のある友人はミニ FM をやめて個人でインターネット・ラジオ局を開設して，大阪から世界に向けて番組を配信しています．時代とともにいかにメディア環境が変わろうとも，ミニ FM 時代に培ってきた「つくり手としての責任」や「リスナーへの心遣い」，そして「みんなで協力しながら創造し表現することを楽しむ心」を大切にしながら活動を続けている人びとがいます．このような人びとの姿は，私たちがこれからのネット社会について考えていく上で重要なヒン

トになると，私は考えています．

実は昨年，私はその友人と札幌のコミュニティ FM 局のスタッフと一緒に「有珠山の被災者向けの生活情報やボランティア情報，地域住民のメッセージを伝えるミニ FM 局を開設したい」という被災者の方にミニ FM 送信機をお贈りしました．その際に，私たちはできる限り被災者の方のニーズに応えようと，例えば「送信機は救援物資として送った方がよいのか，それとも本人に直接手渡しした方がよいのか」などといったことについて電子メールを利用して細かい打ち合わせや情報交換を行ないました．その間，私は実際に北海道に行って被災地に足を踏み入れることも，札幌のコミュニティ FM 局の方とお会いすることもありませんでした．

私たちの取り組みは，被災者への支援活動としてはとてもささやかなものでした．ですが，学生時代に「障害」者の介助ボランティアとして実際に現場で自分の体を動かしてきた私にとって，インターネットを利活用したボランティア体験はとても新鮮に感じられましたし，学ぶところも多くありました．ミニ FM，インターネット，そしてボランティア・・・．こうした私の身近に立ち現れた偶然とも言える<つながり>が現在進行中の私の研究活動に大きな影響を与えているのです．

最後の最後に・・・研究室紹介

演習（三年生ゼミナール）では，「情報社会を読み解く」を合言葉に「若者文化とメディア」や「地域情報化」，「メディア・リテラシー」など，ゼミ生たちがそれぞれ興味関心のあるテーマについて日々勉学に取り組んでいます．関心がおありの方は，私の研究室 Web サイトをご覧ください．これまでに長々と書いてきた内容からもお分かりのように，私自身が自分の興味関心（自分の好み？）に突き動かされて研究活動を行なっている面が多々あります．ですから，ゼミ生たちがもっている興味関心や知的好奇心をできる限り活かした形で「社会学」を身につけてもらえるよう指導していきたい，と考えています．